

**2011 Kumamoto
S.J.C.D.
inservice training
seminar part1**

熊本S.J.C.D.では当会最高顧問の添島正和先生と副会長の川崎俊明先生を講師として、「LONGEVITY」を追求するセミナーを開催します。今回は、ますます求められる歯科医療への信頼性。患者・術者にとって非常に大切なロングエビティを、講師お二人それぞれの観点から鋭く追求したいと考えています。みなさまの日常臨床にも大きなヒントになるのではないのでしょうか。ぜひとも多くの歯科医師・歯科衛生士・歯科技工士・関係者のご参加をお待ちしております。S.J.C.D.会員でない方も積極的にご参加ください。

LONGEVITYの追求

講師：添島正和

講師：川崎俊明



- ・1972年 東京歯科大学卒業
- ・1975年 熊本市にて添島歯科クリニック開設
- ・日本顎咬合学会指導医・認定医
- ・日本口腔インプラント学会専門医
- ・日本歯周病学会専門医
- ・日本臨床歯周病学会認定医
- ・2009年東京歯科大学解剖学講座にて歯学博士修得
- ・2010年福岡歯科大学咬合修復学講座、口腔インプラント学分野臨床教授
- ・熊本S.J.C.D.最高顧問
- ・SJCDインターナショナル常任理事



- ・1979年福岡歯科大学卒業
- ・福岡歯科大学口腔外科学第2講座入局
- ・1985年岡村歯科医院勤務
- ・1987年川崎歯科医院勤務
- ・1990年川崎歯科医院継承開業
- ・1999年福岡歯科大学口腔外科学第2講座にて学位取得
- ・顎咬合学会指導医
- ・Zimmer Dental 公認インストラクター
- ・川崎歯科医院 院長

Longevityを達成するために

歯科治療の究極のゴールは、生涯に渡っていかに審美性を兼ね備えた口腔機能を維持し、全身の健康に寄与することであると私は考えている。

治療終了後の一定期間、症例の経過観察を行っていくなかで、大小個人差はあるものの、予測できないトラブルや変化に遭遇し、理想的な治療ゴールの達成が非常に困難なことを過去に経験してきた。

しかしながらこれらの経験を数多く積むことで、処置の妥当性を客観的に再評価する習慣がいつのまにか身につき、自身の臨床のグレードアップに繋がった。

今回20年以上経過した症例を中心に「Longevity」を達成するための診査・診断と規格化された基礎資料の重要性について私見を述べてみたい。

インプラント修復治療の妥当性

(手術法・補綴デザイン等の経過に基づいて)

現在の修復補綴治療において、インプラント治療は非常に有用なオプションとして認められている。以前の歯周補綴治療全盛の時代ではいかに歯牙を保存して顎口腔機能の回復、維持を図るかに苦慮してきた。そのためKey tooth となる歯牙に対しては様々な手技を用いて歯牙の温存を図っていた。あるいは、予後に多少の不安を残しながら可綴性義歯を用いることもあった。

インプラント治療の予知性が高まった現在ではその適切な使用により、症例によっては患者のメンテナンスを容易にしQ.O.L.を向上させることができるようになった。

しかし、インプラント治療に関しても埋入時期、手術法、補綴デザイン等、考慮すべき点が多く、治療計画立案の時点で考慮されなければならない要素が複雑になったとも言える。

今回、歯周補綴時代から現在のインプラント治療を含めた修復補綴症例の経過を振り返りながら、現時点での私の考えを述べてみたい。

日時：2011年 2月13日(日)

09:30～16:00

会場：熊本県歯科医師会館ホール

費用：歯科医師 8,000円/その他 5,000円

(熊本SJCD会員はそれぞれ 5,000円/ 3,000円)

申込：熊本S.J.C.D.事務局

熊本市小峯1丁目1-95

096-331-0567(fax331-0577)

taka@ourdent.com

定員：100名 (ご入金順。お振込をもって申込とさせていただきます。)

オフィス名	区分	DR	他	連絡先	合計額
	会員			代表者名	円
	一般	人	人	〒 住所 電話 fax e-mail	振込先 肥後銀行佐土原支店 普通145126 熊本SJCD事務局 栗津貴昭

FAX 096-331-0577

できるだけお早めにお申し込みください